



本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。(郵便物ではありません)

2017年(平成29年)9月11日 月曜日 第605号(毎週1回発行)

パチンコ・パチスロ業界最新情報

Weekly Amusement Japan

週刊アミューズメントジャパン

2017年(平成29年)

9月11日
月曜日

編集・発行所 株式会社アミューズメントプレスジャパン 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 エビノアシスト5F TEL.03-5447-0555 <http://www.amusement-japan.co.jp>

ent Japan
ss Japan Inc.
re Japan
ion
ation
料(込)
を望みます

RCPGはギャンブル等依存症問題に対する適正な対策を行う「日本初の団体」Resourceful Center of Problem Gamblingの略で、日本語では問題あるギャンブルへの対策に役立つ「多めの引き出し」を持つ組織を意味する。この名称については西村直之代表理事は「特定の考えに捉われず様々な視点で多様な取り組みを展開するためのプラットフォーム」となり「社会実装のプラットフォーム」となりたいという想いを込めた」と説明した。

代表理事にはRSNの西村直之代表が就任。理事には新垣元氏(医療法人の会理事兼、稲村厚氏)ワンダーポト、理事長南法重と、河本泰博氏(医療法人社団正心会)の病院長、藤原紀氏(諏訪東京理科大学教授)、藤生利勝氏(麻生薬法事務所代表弁護士)が就いた。

IIR推進法の施行以降、パチンコや公営競技に対して依存症対策が求められている。こうした問題を踏まえ、西村代表理事は「IIR推進という国策は国の娯楽の質

理の在り方を変え、事業が大きく変わらうとして

既存機関とも連携、多面的に提言

依存対策で新団体

一般社団法人RCPG

一般社団法人RCPGの設立発表会が4日、都内ホテルで開催された。リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)など、ギャンブル等依存症問題の対策や研究に取り組む団体と連携し、カジノや公営競技、パチンコなどの依存症問題に対し、多面的に提言していくことを目的とした団体だ。



左から藤生利勝理事長、新垣元理事、河本泰博理事、西村直之代表理事、稲村厚理事、藤原紀理事長、田中直樹事務局長

本が発表会で政府がまとめた「論議整理」に対する態度について関が挙げた。西村代表理事は「論議整理はどんな成果を求めているかという具体的なところを踏み込んで作られたものではなく、まずは社会の不安や国民の不安への対策という形で急進で作られたものになっている。いわゆる日博娯楽とIIRの対策が混在しているのか、といった点で議論がさらにも必要ではないか」との見解を示した。

また、論議整理の中で明記された、遊技業界の依存対策を評価・提言する「第三者機関」の設置について、必要なものかと思うが、RCPGのものが「第三者機関として動く」わけではないと、西村代表理事は「既存の施設や機関などを支援したい」という考えを述べた。また、西村代表理事は「IIRの施設や機関を作っていくためのひとつの核にはならない」とも述べているが、こうした形での第三者機関がいいのか有識者が検討している」と述べた。

なお、この発表会に先立ち、各機関が各自、公営競技や遊技産業の各団体などを対象にした説明会を開催。80人を超えた関係者が参加した。

いふ今こそ、娯楽やギャンブルに対する専門的な知識と知見の実践力を兼ね備えた民間の社会資源が必要不可欠だと考えた。IIRの設立経緯について説明した。

RCPGは電話相談や対面相談、依存症問題を抱える人に向けた各種支援プログラムの開発、その提供などを事業として行っていく。

RCPGは電話相談や対面相談、依存症問題を抱える人に向けた各種支援プログラムの開発、その提供などを事業として行っていく。

いふ今こそ、娯楽やギャンブルに対する専門的な知識と知見の実践力を兼ね備えた民間の社会資源が必要不可欠だと考えた。IIRの設立経緯について説明した。